

事業名

春日は一つ、三つの輪

目標

地域と学校の協働を通じて地域人材の積極的な活用を図ること

1. 取組の視点

各校園の課題克服に向けて、地域との協働した取組が効果的に反映するとした方針から、

- 地域人材を積極的に活用することで、学校も地域もより活性化させることができる。
- 各校園が、相互に横のつながりをもつことで子どもの発達段階を踏まえたかかわりをもつことができる。

という2点について確認し、取組を推進することにしました。

2. 取組の概要

- 地域と協働したフェスタの開催

① 春日中学校を核とした「春日ふれあい文化祭」

自治連合会の主催で、2日間にわたって取り組む文化祭。初日は、吹奏楽部などのステージ発表を中心とした文化部の発表。地域住民や幼稚園児も訪れ、楽しいひとときを過ごしてきました。

2日目の午前には、地域の方々などをゲストティーチャーとした授業を公開しました。約50名のゲストティーチャーが30講座の授業を繰り広げました。



② 小学校を核とした「済美っ子祭り」、「大安寺フェスタ」、「済南ふれあい広場」

いずれも地域と学校・PTAが協力して企画・運営にあたる取組。普段の学校での学習を発表する場であるとともに、模擬店を出店したり、地域住民と子どもが交流し合う活動を行ったりするなど、地域コミュニティの拠点といった機能を持ち、地域力の向上を図っています。



3. 成果と課題

地域の方々にとっては、学校に対して貢献していただいている一方、子どもとのふれあいにいきがいを感じて喜びをもって受け入れられている取組となっています。

事業名

春日ステッププラン

目標

基礎学力の向上と規範意識の育成を図ること

1. 取組の視点

“荒れ”の状況を見せた30年前を機に「地域の子どもは地域で守る」を合い言葉として地域別懇談会を立ち上げるなど、地域と学校が連携した取組を積極的に展開しています。学校に対する支援態勢が整っており、本事業ではそれを基盤とした取組を推進しました。一方、大きな“荒れ”を見ることはなくなったものの、依然として残る課題として低学力傾向と規範意識の欠如が指摘されています。

2. 取組の概要

(1) 「わかるわかる学習会」の実施

概要；大学生を指導者として、3年生全員を対象に希望を募り、週2回、放課後（16:30～18:00）行う学習会

内容；基礎学力の定着を図るために、マンツーマンによる個別指導「コツコツコース」（35名）と、自学を旨とし積極的に質問することで発展的な学習に取り組む「ドンドンコース」（11名）の2コースに分けました。

効果；普段の授業では学習意欲に欠ける態度を見せる生徒たちですが、目的意識をもって臨むことで、ひじょうによい雰囲気の中で集中した学習を続けることができました。また、このことが契機となって、普段の授業でもそれまでに比べて意欲的に取り組む姿を見せることになりました。



(2) “出前で部活”の実施

概要；生徒が保育園・幼稚園、福祉施設に出向き、普段取り組んでいる部活動を通じて、園児や利用者と交流する活動

意図；生徒の自己有用感を醸成する絶好の機会となりました。そのことが思春期の中学生にとって自己を見つめ直すこととなり、そのことで落ち着いた生活ができる精神的基盤が養われることをねらった取組です。



3. 成果と課題

この事業を通じて、地域と協働した新しい取組を進めるよき契機となりました。生徒の活動を仕組むことで、教師自身も地域との交流の機会を得ることになりました。今後、規範意識の育成という目的を協力者にも理解してもらい、より確かな成果を残したいものです。

事業名

奈良大好きせいびっ子

目 標

済美・奈良の「人」・「もの」・「こと」に関わる学習活動を全学年で実施する。
心豊かな子どもを育てるため、地域の教育力を活かすとともに、教育環境を整備する。
また、教職員の研修を充実させる。

1、取組の視点

本校は、奈良市の中心部に位置している。このような地の利を活かして、本年度も世界遺産学習に取り組む。学年に応じて視点を変えながら、済美や奈良の「人」・「もの」・「こと」を調べ、知り、考えることで自分の住む済美・奈良に親しみを感じ、誇りに思う児童が育っていくと考えます。また、地域には世界遺産学習に限らず、より幅広く学習活動を支える力があります。本校の児童が心豊かに育つように、地域の方々の協力を得るとともに、児童の体験学習や教員の研修もより充実させたいです。

2、取組の概要

○世界遺産学習の推進

1年生 「なかよしさんぽ」

「なかよしさんぽ」と名付けた校庭や公園で活動です。散歩するたびに新たな発見や体験をした子ども達は、「なかよしさんぽ」が大好きになって、わたしの奈良のすばらしさに気づいていきました。



2年生 「わくわくさんぽ」

身近な済美の町の「すてき」に気づいた子ども達は、活動範囲を広げ、奈良町そして奈良公園の「すてき」に気づくことができました。

3年生 「もっと知ろうよ 済美の町を」

奈良町は、そこに住む人々が文化財や町屋の町並みを存続させたいという強い願いをもち、様々な努力をされてきた結果、地域が活性化されて現在があることを子ども達は知ることができました。

4年生 「奈良公園のひみつを知ろう」

理科の学習と関連させ、奈良を自然環境の観点から学習を進めます。奈良公園の自然観察を通して、奈良公園のすばらしさを知り、奈良を愛し、大切にしていこうとする心が育ってきました。

5年生 「奈良の環境を守ろう」

世界遺産学習を実施し、校区の近くにある世界遺産や文化財を知り、奈良のすばらしさを感じました。そして、「奈良の環境を守ろう」の活動で、奈良の町や文化財を環境の変化から守って行くことの大切さについて考えました。

6年生 『未来に残したい「美しい奈良」の風景を見つけよう』

未来に残したい美しい奈良の風景を視点を、様々な角度から奈良について調べたり考えたりすることを通して、自分たちの住む済美・奈良を大切に守って行くための方策について自分なりの考えをもちました。



○心豊かな子どもを育てるための取組

環境整備事業としては、夏休みに地域の方々の協力を得て、校舎のペンキ塗りを行いました。また、教員の研修会も行い、教員の資質向上を図りました。

3、成果と課題

世界遺産学習に全学年で取り組むことにより、多くの児童が済美や奈良の町が好きになったと感じています。今後も「奈良大好きせいびっ子」を育てるために、継続して取り組みたいです。また、本年度は児童の学習の支援活動や環境整備等幅広く地域の協力を得ることができ、連携が深まりました。地域の方々との打合せの時間確保や計画的な学習支援の体制づくりが今後の課題です。

事業名

大安寺っ子、地域で学び、つながろう！！

目標

校区や地域におられる様々な方々との出会い・交流を通して学ぶことの大切さと人と人がつながり合う力を身につけさせる。

1. 取組の視点

本校では、「しっかり勉強する子」「みんなで支え合う子」「やさしくたくましい子」をめざす子ども像として教育活動を展開しています。

元気でのびのびと学校生活を送っている子どもたちであるが、基本的な生活習慣の確立や自分の思いを正しく相手に伝える力の不足などの課題も残されています。

従来から、学校だけでなく、子どもを中心にして家庭（地域）・学校が連携していくことの大切さを啓発し、協力を得ながら取り組んできましたが、本事業を有効活用しさらに地域の方々との協力関係を深め、校区の子どものよりよい成長を図りたいです。

2. 取組の概要

ボランティアの方々の協力により、夏休みに7回の図書室開放を実施したり平日の業間休みに図書室を開放したりしていただき、多くの児童が読書に親しむ機会が広がりました。また、児童の委員会活動にも参加し、子どもと一緒に図書整理やカバーかけの作業をしていただくことができました。このような読書環境の整備など、こういった日々の活動の積み重ねで、週1回の朝読書や「お話の会」の読み聞かせでも、集中して読んだりお話を聞いたりする児童の姿が多く見られるようになりました。



生活科や総合的な学習の時間を中心に、多くの「人」との関わりを大切にしながら、体験学習や出会いを通して交流を深めました。1年生と幼稚園との交流、2年生児童の地域のお年寄りから全校児童をつなぐ子ども郵便局。3年生では、農家のくらし・昔のくらしを子どもたちが直接地域へ出向きカメラで記録したりインタビューしたりするなど、直接地域から学ぶことができました。全校平和集会では、6年生が学習してきたことを、全校児童・保護者・地域の方々など多くの人々に伝えることができました。これら多くの人々の支え・協力があり実現することができた取り組みを今後も大切にしていきたいです。



3. 成果と課題

地域住民の積極的な支援で、子どもたちの学びも深まり、これまであまりなかった地域の方々との交流も自然な形で行うことができました。

コーディネータ・地域の方々・保護者・学校の連携をより深め、十分な話し合いを重ねながら今後も学校支援の柱として、地域の協力を得ながら事業を発展させたいです。



事業名

瞳きらきら言葉いきいき 豊かに学ぶ済南っ子

目標

「言葉を増やし、言葉で考え、言葉で繋がる」活動を通して

1. 取組の視点

本校では、始業前の全校一斉読書や地域の方による「おはなし会」を実施し、読書活動の充実に取り組んできました。学級図書が充実により、進んで本を読む子は徐々に増えてきていますが、習慣化するまでには至っていません。

また、児童の生活の様子から、改まった場での「話す・聞く」が苦手であり、言葉不足でのトラブルも見られるなど、言語力に弱さが見られます。

そこで、本年度は、読書活動の充実とともに、体験活動や地域ボランティアによる学習支援を充実し、実際の場での様々な人とのコミュニケーションを通して言語力を育てていきたいと考え、取組を進めました。

2. 取組の概要

今年度は、全校一斉読書タイムを8時30分の始業のチャイムから10分間としました。各学級で静かに全員読書を徹底することをめあてに指導を行い、学校全体で定着させることができました。

児童は、予鈴とともに教室に入り、本を用意して静かに集中する姿が見られました。昨年新しい学級図書を補充



したことで、読みたい本の準備が容易になり意欲の向上に繋がっています。また、今年度は、PTA図書委員会が、毎週金曜日の昼休みに読み聞かせ会を始め、低学年児童の読書への関心を高めてくれました。

「おはなし会」は対象を1～5年生とし、年8回、各学級1時間ずつで実施しました。児童は毎回楽しく集中して聞くことができ、言葉を耕し、

心を豊かにする時間となっています。

体験活動では、全学年において、ボランティアやゲストティーチャーを招聘した活動を実施し、様々な出会いを通して児童の言葉の力や人間関係の構築を図ってきました。



1年生では、民生児童委員協議会の方々に協力していただき、昔遊びの活動を実施しました。児童は、丁寧に教えてくださる地域の方々と楽しい交流を通して遊びも上手にできるようになりました。

学習支援ボランティアについては、今年は保護者を中心に学習に応じて募集を行い、充実を図ってきました。5・6年生の家庭科では、調理実習とミシン縫いの学習補助として当該学年の保護者に依頼しました。各学習2～4名の協力でしたが、児童の質問や求めに対して、分かりやすい説明や丁寧な指導で、スムーズに実習や作業を進めることができました。



3. 成果と課題

読書活動で言葉を増やし、体験活動やボランティアの方々との出会いを通して、実際に言葉で考え、言葉で繋がる活動を行い、言葉の大切さについて指導することができました。

今後も、児童の言語力や豊かな心の育成に向け、挨拶や言葉遣いなどの基本的な指導を怠らず、本年度の取組をなお一層推進し、豊かに学ぶ済南っ子を育てていきたいです。

事業名

ウキウキ ワクワク 幼稚園は楽しいね

目標

いろいろな感動体験を通して、元気いっぱいの心と体を育む

1. 取組の視点

園児・保護者・異年齢児・地域の方等様々な人たちと共に、感動体験ができる活動や環境を工夫し、つながりを大切にしながら、心も体も元気いっぱいの幼児に育つことを願い、以下の活動を計画し取り組みました。

2. 取組の概要

○「絵本の読み聞かせ及び教育講演会」

朗天狗のしんちゃんによる絵本の読み聞かせと、保護者・地域の方対象に教育講演会を行いました。絵本の読み聞かせは、しんちゃんと子ども達の楽しいやりとり等で会場内は笑い声が絶えませんでした。また、講演会は、東北大震災後いち早く支援に行かれた時の被災された方々の様子を聞かせていただいたり、子育てで一番大切なことは、子どもが笑顔で毎日を過ごせるようにしてあげて欲しいという内容でした。保護者の方から、“我が子のあんなに楽しそうに、大きな声で笑っている姿に感動しました。”“講演会はとっても良かったです。本当に笑顔って大事ですね。”などの感想をいただきました。



○「ふれあい広場」

今回のふれあい遊びは、親子・地域の方と一緒に園庭でケン玉遊びをしたり、保育室で輪投げやボウリング遊びをしたり、地域の方から「かたかた」というおもちゃ作りを教えてくださいました。また、「子犬のポチとスーパードラゴン」とい



う人形劇を見ました。迫力満点で子どもたちは登場人物と一体になって楽しむことができました。

○「押し花で壁飾りを作ろう」

幼稚園には四季を通じていろいろな草花が咲いています。春から秋にかけて保護者の方や地域の方の協力で、いろいろな花を押し花にして、その押し花を使って親子で相談しながら素敵な壁飾りを作りました。



○「親子でカプラ遊びをしよう」

今年度は、カプラ（積み木）を各家庭に持ち帰り、家族で遊ぶ機会をもちました。また、全園児親子でカプラ遊びをすることを企画し、小学校の体育館で行いました。園にあるカプラだけでは不足するため、隣の市から3万個借りて実施しました。たくさんのカプラを使って親子で十分遊ぶことができ、満足感を味わうことができました。



3. 成果と課題

子どもたちは、保護者や地域の方々と一緒にいろいろな感動体験をしたことで、心も体も元気いっぱい育ちました。保護者の方は、我が子の生き生きと活動する様子から子育ての喜びを味わい、地域の方々には、幼稚園教育の大切さや支援の必要性を感じていただくことができました。今後も、地域の中での異年齢交流を活発に行い、地域ぐるみの子育て支援の充実に向けて取り組んでいきたいです。

事業名

広がれ！ふれあいの輪 大安寺幼稚園

目標

**園児も保護者も心弾み、様々な地域の方々と親しみ集う明るく
元気な幼稚園づくりをする。**

1. 取組の視点

園児や保護者が、地域の方々との交流の中で、様々な感動体験をしながらかかわりを深めたり、心弾ませて活動しながら地域に親しみ、明るさと元気を広げる幼稚園を目指して計画し取り組みました。親子でたくさんの絵本やお話に出会い親しむ経験、季節の草花を育てる経験、体を思いきり動かして遊ぶ楽しさを積み重ね、心身共に健やかで心豊かな子どもが育つように、また、地域の様々な方々とふれあい、ともに心弾む時間を過ごせるように保育内容を工夫しました。

2. 取組の概要

毎月、学年ごとに隔週で火曜日に、親子絵本の日があります。親子絵本の日には、降園30分前から、絵本の部屋で親子参加の読み聞かせを楽しみます。読み聞かせには、地域コーディネーターの方が来てくださる日があり、絵本を読んでもさったり、いろいろな楽しい内容で進めてくださったりします。園児は毎回、楽しみに心待ちし、保護者も親しみをもって参加する様子が見られます。読み聞かせ後は、園児が選んだ絵本を保護者が読

み聞かせて一緒に楽しみます。親子で寄り添いながら、温かい雰囲気の中で楽しい



ひとときを過ごすことができます。今年度も、本事業で新たに絵本を購入し、さらに選ぶ楽しさがふえた中で、一人に2、3冊の絵本を選んで喜んで持ち帰る園児の姿が見られました。

体を動かして遊ぶ楽しさを味わう取り組みとして、キッズサッカーモデル園に登録し、年間8回の指導を受けました。サッカー遊びだけでなく、いろいろな準備体操やボール遊びなどをしながら、ボールに親しみ、進んで遊びに参加する姿が見られました。参観された保護者の方からも、元気いっぱい走り回る園児に温かい応援していただき、意欲がより高まって参加できました。



地域の様々な方々とふれあう機会をもちました。中でも年間3回、万年青年クラブの方々が園に遊びに来られ、園児たちと楽しく過ごし懐かしい遊びも教えていただきました。おだやかに温かく見守り、声をかけてくださることが園児には心地よく、親しみをもって優しい気持ちで人に接することができる園児の育ちにつながりました。

3. 成果と課題

地域の方々の温かなご支援をいただきながら、園の活動やふれあいが保育計画の中で位置づき充実してきました。また、絵本の充実により、親子で楽しさを共有しながら心豊かな時間を過ごしたり、体を動かす楽しさを味わったりしました。いろいろな感動体験することの大切さを再認識し、豊かな心を育む保育内容の計画立案の重要性も実感しました。今後も、地域の教育力を活かしながら、みんなが親しみ集う明るく元気な幼稚園づくりに向け、環境や活動の見直し、再検討、実施を考えていきたいと思います。